

# わらび若者ミーティング

～若者の考える蕨市の未来～

## 提言書

### 目次

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 第1班 子育て・教育グループからの提案・ 2
- 第2班 にぎわい、安全・安心、環境  
グループからの提案・・ 6
- 第3班 文化・スポーツ・生涯学習  
グループからの提案・・ 9
- おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12



2023年（令和5年）1月

## はじめに

### 「わらび若者ミーティング」について

- 私たちが暮らす蕨市では、現在、新たな「将来ビジョン」の策定が進められています。この新たな「将来ビジョン」は、市政運営の基本指針となるものであり、蕨市の未来を見据えるとても大切な計画です。
- この策定の取組の一環として開催された「わらび若者ミーティング」は、次代を担う若い世代の声をまちづくりに反映させていくという主旨のもと、市からの呼びかけに応じた市内で活動する団体や公募による17歳から24歳までの15名が集まり、未来の蕨市のまちづくりについて意見交換を行いました。
- 次ページ以降に、私たちが考える「理想の蕨」や「課題解決に向けたアイデア」などをまとめましたので、若者たちのひとつの声として、今後のまちづくりに生かしていただけたら嬉しく思います。

### テーマ

「若者の考える蕨市の未来！」をテーマに、まちづくりの分野ごとに、以下の3つのグループに分かれて意見交換を行いました。

「第1班 子育て・教育グループ」

「第2班 にぎわい、安全・安心、環境グループ」

「第3班 文化・スポーツ・生涯学習グループ」

### 開催スケジュール

日 時		場 所	内 容
令和4年 12月3日（土）	午後1時30分 ～4時30分	自治会館 1階大会議室	10年後の蕨市と現在の蕨市について、課題解決のための取組・アイデアについて 等

## 第1班 子育て・教育グループからの提言

《メンバー》 敬称略・50音順

石丸 遼、鈴木 颯太、園川 真唯、坪野 泰河



## 1. 10年後の理想の蕨と現在の課題

### (1) 多文化共生・多様性があるまち。

- 市内には、多様な国籍の外国人が多く住んでおり、色々な国の文化に触れることができます。
- 就労の際には、髪を染めることなどによって働けない状況があるため、個性を認めるまちになってほしいと思います。

### (2) 防犯などの安全対策が大切。

- 全国で起きている学校内や学校周辺における傷害事件、通り魔事件を教訓に、子どもの安全を守ることが大切です。

### (3) 子育て支援が必要。

- 保育園等での0～2歳児の受け入れ拡充や、子育て世代への金銭面や制度面の支援が必要です。特に、ひとり親や母子家庭だけでなく、中流階層に支援を届ける必要があります。

### (4) 公共施設・公園を利用しやすく。

- 小中学生が図書館を利用しやすくする必要があります。公民館などの公共施設においてコミュニケーションの場をつくることが求められます。
- 狭い公園が多く、ボール遊びなど色々な遊び方ができる公園が少なくなっています。

### (5) オンライン教育を使いこなす。

- コロナ禍で、学校のオンライン教育が進みましたが、教員によりオンラインの活用方法は様々であり、教員がメディアを使いこなせるようにする必要があります。もちろん、子ども自身のメディアリテラシー対策も重要です。

### (6) 地域の結びつき、歴史・文化、伝統を大切に。

- 蕨市は地域での結びつきが強いと感じています。都市化しても人と人とのつながりが残っていて、年齢関係なく関わりを持つことができます。人が多くにぎやかな一方、市民が落ち着ける場所もあります。
- 中山道の歴史や、双子織などの伝統を大切に継承・発展していく必要があります。

## 2. 課題解決のための取組・アイデア

### (1) 多文化や多様性に最も寛容なまちにしましょう。

- 言語教室（英語、中国語、トルコ語など）や料理教室（外国の食事）などにより色々な国の文化に触れる機会を増やすことを提案します。また、多文化を取り入れ、美味しくて独自性のある学校給食を提供してはどうでしょうか。
- 中高生の制服は、女子のズボン選択だけでなく、男子のスカート選択も可能とし、制服を自由に選べるようにしてはどうでしょうか。

### (2) 子どもの安全を守りましょう。

- 子どもたち自身が安全マップをつくることを提案します。安全マップ作成によって、子どもたちの防衛意識を高めることができます。
- 安全マップ作成の際には、保護者等と一緒に「こども 110 番の家」を実際にたずねて、どんな人がいるかを日頃から知っておくことで、いざという時に助けを求めることができ、地域との交流にもつながります。

### (3) 広く子育て世代を応援しましょう。

- 誰もが蔽で子育てをしたいと思えるよう、ひとり親や母子家庭だけでなく、中流階層に支援が届くような制度設計を提案します。これにより、子育て世代の定着と流入を図り、市内に子どもたちが増えることで、まちの活性化も期待できるのではないのでしょうか。

### (4) 図書館や公民館、公園をもっと使いやすくしましょう。

- 子どもたちが図書館をもっと利用しやすくすることを提案します。電子化の加速に加え、一人ひとりに合った本を提案してくれるフローチャートを作ってはどうでしょうか。
- 公民館やスポーツ施設など予約制の施設を予約しなくても使いやすくすることを提案します。錦町スポーツ広場や北町の市民体育館を、平日の日中等の利用者が少ない時間帯に、小学生向けに無料開放してはどうでしょうか。
- 公園は、どんな遊びでもできる多目的な公園や、一定の広さが確保された公園を望みます。

**(5) 子どもたちによるオンラインを活用した情報発信を進めましょう。**

- 小中学生や地元の高校生、大学生等が中心となった情報発信を提案します。例えば、SNS や Twitter を活用し、いわゆる学校（学級）新聞を公開して地域の人に見ていただいてはどうでしょうか。子どもたちのメディアリテラシーの向上にも役立つと考えます。



**(6) 地域のつながりを大切にしましょう。**

- 様々な機会を通じて地域の絆を深めることを提案します。例えば、小中学校や高校における他校とのつながりを持たせる合宿や交流、多文化を知る交流、地域資源（双子織の体験など）を通じた交流、中山道を盛り上げるイベントなどを実施してはどうでしょうか。

## 第2班 にぎわい、安全・安心、環境グループからの提案

《メンバー》 敬称略・50音順

尾方 瑛、木田 麗花、清水 隆、中村 弐千華、古川 明日香、吉田 愛佳



## 1. 10年後の理想の蕨と現在の課題

### 【10年後の理想の蕨市】

- 市外の人に「蕨市」と伝えて、分かってもらえる知名度のある市にしたい。
- 小さい子から高齢者まで誰もが住みやすいまちにしたい。

#### (1) 蕨市ならではの“にぎわい”を大切に。

- お祭りやイベントなど盛り上がりや楽しさあふれる蕨市にしたいが、浦和・川越とは違った蕨市独自の“にぎわい”があると思います。
- 日常的な“にぎわい”ではなく、ハレとケを使い分けた一年を通したイベントや祭り、商店街を中心とした非日常と日常を分けたにぎわい創出の取組が必要です。
- 駅前から商店街の道が歩きづらいので人の導線を意識したまちづくりが必要です。

#### (2) 国籍や年齢、性別を超えた交流を。

- 昔（子どもの時）と比べて、顔見知りの方が減った印象を受けます。外国人が多いという特徴を生かし、その外国人と市内の若い人との交流機会を増やすことも考えられます。特に、新しく蕨市に入ってきた人には、ゴミ捨てのルールが分かっていなかったり、隣人トラブルに繋がっている印象を受けるので、情報交換や交流の機会があったら良いと思います。
- 子ども、大人、高齢者も誰もが安心して生活できる町が理想です。また、外国人の方向けのレストランに日本人がなかなか入りづらいといった意見もあります。

#### (3) 子どもや親が暮らしやすい環境を。

- 子育てをしながら仕事をする人たちにとって、優しい環境が整っているまちが理想です。
- 近所でボール遊びが禁止されている場所があるので、子どもたちがのびのびと運動を楽しむことができるよう遊び方に制限をしないでほしいという意見もあります。

#### (4) 安心・安全できれいなまちに。

- ごみが道に落ちていない美化が行き届いたきれいなまちにしたいです。
- 一人暮らしの女性でも住みやすいまちが安心・安全なまちだと思います。

## 2. 課題解決のための取組・アイデア

### (1) 蕨市ならではの“にぎわい”を大切にしましょう。

- 蕨市の特徴を活かした取組として、蕨の玄関口である駅前広場から宿場町へつながる道の活用や人の導線を意識した一体的なまちづくりが大切です。
- 蕨市の特徴である宿場町をもっと活用し、+アルファで、商店街に何か目玉となる施設があった方が良いと思います。また、蕨の玄関口である駅前を盛り上げる整備や市外からも「蕨市に来たい！」と思わせる商店街の共通の取組が必要だと思います。例えば、昔あった温泉施設を復活させて蕨温泉街づくりや地元の外国人と協力した本格的な外国料理を提供できる商店街をつくるのも一案です。

### (2) 国籍や年齢、性別を超えた交流を広げましょう。

- 若い人が集まる施設（ドッグカフェやSNS映えするお店）を作ったり、国籍や性別、年齢などを超えて交流できるイベントを外国人向けのレストランで実施したいです。WICA<sup>(※)</sup>などの活動で、交流イベントを開いても同じメンバーが集まるので、特に若い人が集まりやすい、楽しいイベントができれば良いと思います。

### (3) 子どもや親が暮らしやすい環境をつくりましょう。

- 子どもたちが好きな遊具が公園にあったり、自由に遊べる環境が市内にたくさんあったら良いと思います。
- 商店街内の子連れでも気軽に行けるお店が分かるよう、お勧めを紹介する情報誌をつくれれば役立ちます。

### (4) 安心・安全できれいなまちにしましょう。

- 環境にやさしいエネルギーを使ったり、ゴミを再利用したり環境に配慮した取組が広がれば良いと思います。カーボンニュートラルなど持続可能な暮らしに向けて積極的に取り組むまちであってほしいです。

(※) WICA (Warabi International Culture Association の略称) / 蕨市が主催した国際青少年キャンプの参加者で国際交流に興味・関心がある 14~24 歳までの若者による市民活動団体。

## 第3班 文化・スポーツ・生涯学習グループからの提案

《メンバー》 敬称略・50音順

下山 桃佳、菅谷 優希、堂満 百花、中井 悠貴、保坂 朱李



## 1. 10年後の理想の蕨と現在の課題

### (1) 市民が蕨の文化をもっと学ぶまち。

- わらびりんごを使った商品がたくさんある、双子織がもっと広がる・・・など、市民誰もが蕨の伝統を知っていて、蕨の良いところを言える人がたくさんいる。そんな蕨であってほしいと思います。
- 蕨は色んなカルチャーのまちです。音楽も盛んです。「わら音」は秀逸ですし、老若男女問わず音楽ができる蕨、どこでも音楽が楽しめる蕨、であってほしいと思います。
- そのためには、学校以外で学びを得られる環境が必要です。学校同士の交流機会や、蕨らしく国際交流・多文化共生から学ぶ機会、社会人も学び続ける機会の創出などが大切かと思えます。勉強できる空間も必要です。

### (2) 市民がスポーツに親しむまち。

- 埼玉県下には、野球・サッカー・ラグビーなど、「この街ではこれ！」というスポーツがあります。蕨はどうでしょうか？蕨はコレ！！というスポーツが、これから育っていけば良いと思います。
- それから、市民が日頃からスポーツに親しむまちであれば良いと思います。健康のためのスポーツ促進、スポーツをする場所や機会に困らない誰もがスポーツに取り組める環境づくり、科学に基づくスポーツの学習などが大切です。
- 地域全体でスポーツに取り組む、応援する環境づくりも大切です。総合型地域スポーツクラブを創設する、学校単位で地域のスポーツを応援する、民間スポーツクラブの利用を促して、市民がスポーツに親しむ機会と場を広げる、なども大切です。

### (3) 情報をもっと伝わる、情報をもっと伝えるまち。

- いつも暮らす地域のことって、意外とわからないものです。インターネットに慣れた私たちでも、いや、情報が溢れる今を生きる私たちだからこそ、あれ？欲しいあの情報はどこにあるのかな？と感じたりします。
- SNSを使った情報発信、情報交流も良いでしょう。しかし、インターネットを活用した情報発信は、情報がそこにあるとわかって見にいかないと、欲しい情報が見つからない、という側面もあります。
- そこで私たちは、人が集まる場所に昔ながらの掲示板、電子掲示板などを置くのも必要ではないかと考えました。また、駅周辺の再開発に伴う情報拠点づくりも必要ではないかと考えます。この点については、次ページで詳しく提案します。

## 2. 課題解決のための取組・アイデア

### (1) 学びの機会と場をつくりましょう。

- 学校では、小・中学校で蕨市の伝統を体験する機会を増やします。児童・生徒の意見を実際に取り入れる学校運営や、アイデアがたくさん出せるような授業の実施など、伝統体験以外にも多様な学びのきっかけをつくるよう提案します。
- 音楽については、学校同士の音楽交流を年1回でも企画する、小学校と音楽家協会の連携事業を充実させる、「わら音」の家族部門をつくり家庭から音楽に親しむ、といったことが考えられます。キャパシティが大きく搬入口が広いホールも必要です。
- 学生・社会人の学びについては、みんなで集まって勉強できる空間づくりを提案します。図書館に誰でも利用可能な自習室を用意する、団体登録不要で1人でも施設の部屋を借りられるようにする、さらには(3)と関連しますが、駅周辺の再開発に伴い誰でも利用できる学習拠点をつくったらどうでしょうか。

### (2) 地域全体でスポーツに親しむ環境をつくりましょう。

- やっぱり、まずは、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境づくりが第一です。公共施設の整備充実と利用促進(体育館、野球場、テニスコート等)に努めましょう。
- 民間スポーツ施設を、市民は低価格で利用可能とするのも一案です。民間スポーツ施設といえばスポーツクラブがありますから、それらの利用を促すのも良いと思います。
- 総合型地域スポーツクラブを育て、民間企業の出資も得つつ市がバックアップし、地域全体でスポーツクラブを運営していくのも「地域全体でスポーツに親しむ環境」づくりにつながると考えます。

### (3) 駅前再開発に伴い拠点となる空間をつくり、いろいろな機能を持たせましょう。

- 蕨市では、現在、駅前再開発事業(蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業)が進んでおり、大いに期待しています。立地も良いですし、学び・交流をはじめ多様な機能をもった空間をつくり、拠点としていくことを提案します。
- まず、①「活動・交流拠点機能」です。この機能には、学生が学習できる学びの拠点機能も含まれます。マイナンバーカード対応で利用可能、団体登録なくとも気軽に利用できるようにします。
- 次に、前ページの(3)でふれた②「情報・広報拠点機能」です。双方向の電子掲示板などを置き、官民いろいろな情報が集まる拠点とします。最後はやはり、③「商業機能」です。ここには「蕨製品のセレクトショップ」を置き、買うだけでなく、蕨の文化を学ぶ場ともします。

## おわりに

---

- ミーティングの最後には、当日の成果発表として、2ページから11ページに書かれている私たちの思いを頼高市長に伝え、その後、意見交換を行いました。
- 今回、私たちがまとめた「理想の蕨」や「課題解決に向けたアイデア」などの提言が、計画策定や今後のまちづくりの取組の一助となり、素晴らしい「蕨市の未来」が実現されることを願っています。



第1班 子育て・教育グループ



第2班 にぎわい、安全・安心、環境グループ



第3班 文化・スポーツ・生涯学習グループ